

いま!この一冊!

いっさつ



『**たいせつな気づき**
The Great Realisation』 **2年生~**

~新型コロナウイルスをのりこえた未来の物語~
作/Tomos Roberts 絵/Nomoco **E/D**
訳/おおしまののか 創元社

「ねえ、もう一度だけ、あのウイルスのお話をしてよ。そしたらちゃんと寝るから。」

「でも、もう疲れてるでしょう? ずいぶん眠そうだよ。」

「お願い! あのお話が一番好きなの。もう一度だけ。」

舞台は、コロナウイルスを経てよりよくなったいつかの未来。

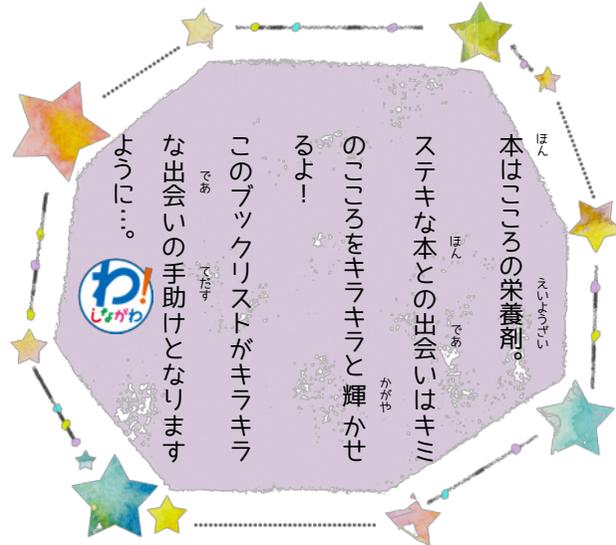
一人の男の子が、お父さんにお気に入りの物語をせがみます…。

コロナウイルスによって失くしたものもたくさんありますが、気づいたこともたくさんあります。

相手を思いやること、笑顔の大切さ、地球から聞こえてくる悲鳴…。

そう、2020年は“たいせつな気づき”のはじまりだったのです。

この本をきっかけに、本当に大切なことは何なのか、みんなで考えてみませんか?



としょかん 図書館おすすめブックリスト



キラ
キミのところに☆めぎを...

しょうがくせい
小学生



みさぎ
『岬のマヨイガ』

こうだんしゃ
講談社

5年生~

さく かしわばさちこ
作/柏葉幸子

え 絵/さいとうゆきこ

93/4

あの日、両親を亡くした萌花は会ったこともない親戚にひきとられるために、そしてゆりえは暴力をふるう夫から逃れるために、孤崎の駅に降り立った。彼女たちの運命を変えたのは、東日本大震災。それから、避難先で出会った不思議な老婆キワとの、奇妙な共同生活がはじまった。

東北を舞台に、異世界の住人たちとの交流を描くファンタジー作品。

東日本大震災から10年、この夏アニメ映画化決定!

ねんなつごう
2021年夏号

編集・発行: 五反田図書館

1・2ねんせい～

『ヴォドニークの水の館』 BL出版



作/まきあつこ 訳/降矢なな OE/U

生ずる希望をなくしたむすめは、水の主ヴォドニークに命を救われ、水の館で仕えることになりました。はじめは、素直に従っていたむすめでしたが、ある日、けつてのぞいてはいけないと言いつけられたつぼの中をのぞいてしまい…。

せつなくも美しいチェコのむかしばなし。

3・4ねんせい～

『わたしに手紙を書いて』 評論社 E/U



文/ジャン・グレイディ 絵/アモ・ヒロ 訳/松川真弓

第二次世界大戦中のアメリカで、日系人というだけで、強制収容所に入れられた子どもたち。図書館司書のブリード先生は、なんとか子どもたちを勇気づけようと、たくさんのお手紙を送り続けた。子どもたちも収容所からたくさんのお手紙を先生に送り続けた。

ふかい愛で子どもたちを支え続けた図書館員の姿をえがく、本当にあったお話。

5・6ねんせい～

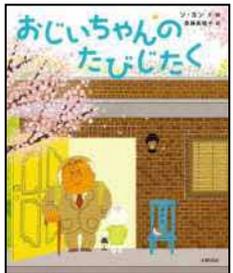
『妖怪コンビニで、バイトははじめました。』



令丈ヒロ子 あすなろ書房 93/L

中学2年の少年イズミは、幼い頃から人外(幽霊)がみえる。そんなイズミの父さんが突然再婚した。新しい家族との関係になかなかじめないイズミは、窮屈になり、家を飛び出してしまふ。ふらふらと歩いていると、見たことのないコンビニを見つけた。なんとそこは生きている人間には見えない、幽霊と妖怪専門のコンビニだった!?

『おじいちゃんのだびじたく』 E/U



作/絵/ソ・ヨン 訳/斎藤真理子 小峰書店

ある日、しずかなおじいちゃんのうちに、お客さまがやってきました。

「まってんだよ!」おじいちゃんは大喜びで、旅のしたくをはじめます。

おじいちゃんのだびぢたくは「大好きな人たちに会いにくため。」

別れはかなしいだけじゃない、そんなことに気づかせてくれる韓国の絵本。

『本気でやれば、なんでもできる!?!』 徳間書店 93/3

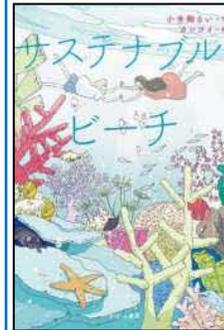


作/ダョン・ヨマン 絵/ケイ・アレク 訳/三原卓

小学3年生のピリーは、授業に集中するのが苦手。すぐ、ほかのことに気をとられてしまいます。そんなピリーに先生は、「いっしょうけんめいがんばれば、できないことなんてひとつもないよ」と言います。そうか、本気でやればなんでもできるんだ!という気持ちになってきたピリー。すると友だちに「じゃあ、角をはやせる?」と言われて…。

ピリーのがんばりがグスッと笑える楽しいお話。

『サステナブル・ビーチ』 さ・え・ら書房 93/3



作/小手鞠るい 絵/カシワイ

小学6年生男子の七海は、母親がアメリカ人で父親が日本人のダブル。小学生最後の夏休みに、母親と訪れたハワイの海で巨大なクラゲのオブジェを見つけた。そのクラゲの正体は、なんと捨てられたプラスチックを集めた「ごみ」だったのだ。美しいハワイの海を汚すごみの山に衝撃をうけた七海は、地球を守るために自分には何ができるのかを考え始める。

『気のいいバルテクとアヒルのはなし』 徳間書店 E/T



作/絵/クリスティナ・トルカ 訳/おびかゆうこ

むかし、ポーランドの山奥に、バルテクという若者がいました。バルテクは質しく、家族もいませんでしたが、一羽のアヒルをととても可愛がっていました。バルテクはある日、命を助けてあげたカエルの王さまから不思議な力をさずかります。さて、その帰りにであつた兵士たちの大将から、可愛がっているアヒルを食べたいと言われてしまい、そこで不思議な力のことを思ひ出したバルテクは…?

『ぼくたちの緑の星』 童心社 93/3



作/小手鞠るい

ぼくたちは名前をうばわれ、番号でよばれていた。家族や友だちも失いかけていた。学校では、図工の授業も音楽の授業もなく、自分で考えることを禁止させられた。ひとつの大きな「ゼンタイ・モクヒョウ」に向かって、決まりを守り、「ジュウゾク」することが何よりも重要なのだ。

大切なものをを守るために、ぼくたちはいったい何ができるのか?

『貸出禁止の本をすくえ!』 ほるぷ出版 93/7



作/アラン・グラツィ 訳/ないとうふみこ

ある日、私の大好きな本が、図書室から消えた。放課後に図書室で本を読んで過ごすのが唯一の楽しみだったのに。その日をさかひに、図書室からどんどん本が消えていった。大人が勝手に、子どもには「ふさわしくない」本と決めたのだ。学校の図書室は自由に好きな本を読める場所だったはずなのに…。引っ込み思案だったエイミー・アンが、大切な本を救うために立ち上がる!